

おおい おおい はつ でん しよ

大井ダム・大井発電所

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：岐阜県中津川市・恵那市 竣工年：1924（大正13）年

管理者：関西電力株式会社

認定理由：国内初の本格的ダム式発電所として建設され、電力王・福沢桃介氏最大の偉業ともいわれ、大正期の風情を残す貴重な土木遺産である。

令和5年度登録



▲ 左から大井発電所、新大井発電所、大井ダムを眺める。手前の東雲橋からの展望が素晴らしい。ダム貯水池は恵那峡で、遊覧船から堤体を眺めることができる。また、後ろには恵那山がそびえたつ。

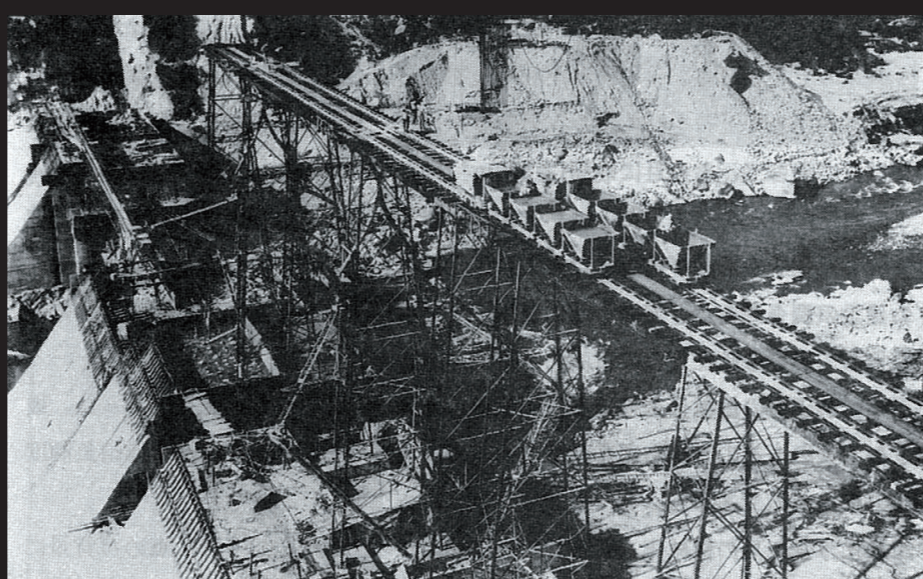
大井ダムと発電所は、大同電力によって大正期に建設された、国内初の本格的ダム式発電所である。日清・日露戦争を経て、工業生産の急速発展に伴って電力需要が拡大し、全国各地に電力会社が誕生した。電力王・福沢桃介氏は名古屋電灯や大同電力の社長を務め、木曾川の水力開発を進めた。大井よりも上流に建設された賤母、大桑、須原、桃山、読書の発電所はいずれも水路式の発電所だった。しかし上流部よりも木曾川の勾配が緩やかで、水路式発電は不利であるためダム水路式とした。米国から輸入した最新機器を利用した、高さ50mを超える重力式コンクリートダムは当時最大級であった。

大井ダムは、堤頂には21基の洪水吐門扉（ゲート）が設置され、門扉は昭和40～50年代に交換されているものの、堤体そのものは部分的な補修を除き、竣工当時そのままの姿を残している。減勢工の形状は周辺岩盤に調和しており、ダム天端の外灯や欄干も大正ロマンを残して美しい。大井発電所は、ダム水路式発電所で、電力需要により出力調整を可能にした最初の発電所である。

なお本施設は、1951年に関西電力に設備移管されたものである。



▲ ダム本体と減勢工ならびに岩盤



▲ 機械化したダム建設工事（『大井発電所の建設』1994）



▲ サージタンクと水圧鉄管



▲ 天端の外灯と欄干

